



有朋会130年の歴史と記念誌発刊にあたって

有朋会会長 宮尾正隆

会報「有朋第36号」の発行にあたり、皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

有朋会は、明治21年（1888）に師範学校の第1回卒業生によって発足し、来年で130周年を迎えます。

佐賀大学は、終戦後の教育改革に伴い昭和24年（1949）に師範学校から佐賀大学教育学部（後に教育学部の中に総合文化課程が編入）となりました。平成8年（1996）文化教育学部へと改革され、平成28年（2016）に、教員養成を目的とした「教育学部」と芸術を通して地域に貢献する「芸術地域デザイン学部」に改編されました。現在の同窓会としては、旧教育学部〔小学校課程、中学校課程、特別教科（美術・工芸）課程、養護課程、教育専攻科、大学院〕、総合文化課程、文化教育学部（学校教育課程、国際文化課程、人間環境課程、美術・工芸課程）、及び新教育学部、芸術地域デザイン学部、教職大学院の卒業・修了生で構成されています。現在の会員数は、約1万6千名となっています。

さて、今年度からは芸術地域デザイン学部の中に、陶磁器等を取り入れた有田セラミック分野が発足しました。その開講記念式典が7月12日(水)に有田キャンパスで行われます。有朋会としては、昨年8月の総会時に芸術地域デザイン学部に300万円、教育学部に200万円の寄付を致しました（右記の写真）。これも会員皆様のご理解とご支援のおかげです。新学部から地域や国際社会に貢献する人材が数多く育成

されることを願っています。

ところで、有朋会では130周年の節目を迎えるに当たり、記念誌を発刊することになりました。今回発刊する記念誌の内容は、主に戦後から現在までの教育学部・文化教育学部の歩みを中心に編集したいと考えています。特に、これまでの会報誌には記載が少ない「戦中・戦後（昭17～昭21）」の記録等を後世まで長く伝えたく特集したいと考えています。もし、ご家庭に当時の資料（写真・参考資料・現物等）がありましたら是非、有朋会事務局まで提供してください。（P12の原稿募集を参照）

有朋会は会員相互の親睦を図るとともに、佐賀大学・学部の発展に寄与し、地域の振興発展に貢献することを目的としています。今後とも、会員の皆様のご協力とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



～有朋会から2学部への寄付贈呈の様子～

教員生活スタートを目前にして…



H29院修

富 永 正 幸

ワクワクドキドキ、期待、不安…様々な感情で胸が膨らんでいる今、私が感じていることをまとめてみたい。

振り返ってみると、今までの人生の中で大変な苦労やどうしようもない挫折を経験したことがほとんどない。恐らく、到底できそうもない挑戦をしなかったからだろう。良い意味で考えると、自己の力量に見合った課題に取り組むことができていたといえる。一方で「こんなことが自分にできるのか?」という状況にあえて身を置く機会は数えるほどしかなかったという弱さをはらんでいる。つまり、自分の力ではどうしようもない状況との遭遇に対して経験が足りない

人生であった。

今まで歩んできた人生はほんの一例にしか過ぎない。それは人の数だけものの見方・考え

方があるからだ。そのような中で、私の価値観は通用するのだろうか。共感する人もいれば真っ向から反対する人もいるだろう。そのような他者との関わりを密に持つ場所こそ「学校」であると私は考えている。まさに自分の力ではどうしようもない状況との遭遇をこれから当たり前のようにしていかなければならないのである。…不安である。

さて、24年間の人生を振り返りながら、今感じている不安(私自身の弱さ)について吐露してきたが、もちろんワクワクドキドキ、期待していることもある。その中の一つは、子どもと一緒に成長していく環境に身を置くことができるということである。

私は佐賀大学在学中に、教育実習や非常勤講師等を経験させていただいた。短期間ではあるが、子どもの成長を目の当たりにして「教員」の魅力を感じた。そして、子どもと先生方のイキイキした表情を見て「こんな教員になりたい」「こんなクラスを作りたい」と強く感じた。

平成29年度からは、仲間とともに自分の力ではどうしようもない状況を乗り越えながら教員として成長し、充実した教員生活を過ごしていきたい。



～2014年3月 教科教育選修体育教育教室～

佐賀大学で過ごした6年間を振り返って

H29院修

畑 中 悠 花



私は今から6年前たくさんの期待と不安の中、佐賀大学に入学しました。大学院を修了する今、佐賀大学で過ごした6年間を振り返ってみようと思います。

小学校の先生を目指して入学した文化教育学部、私は家政教育分野に所属することになりました。そこで私は小学校の教員免許に加え、中学校、高等学校の家庭科の教員免許の取得を目指して勉学に励みました。様々な授業を受け、家庭科という教科について勉強していく中で、私はみるみるうちに家庭科という教科に魅きつけられました。小学校の教師を目指していた私ですが、学部4年生の春、中学校の家庭科の教師になるために教員採用試験を受験すること、もっと家庭科について勉強したく大学院に進学することを決心しました。

大学院では、同じ夢を持つ友達との出会いがありました。専門性の高い授業、実際の学校現場で

の実習などたくさんのことを学びました。大学院の2年間悩みや苦悩を共有してきた友達と出会えたこと、いつも優しく指導してくださった先生方と出会えたことは私の大きな財産です。

今年の春から、大学院で出会った友達と共に佐賀県の中学校で教員になります。6年前のようにたくさんの不安と期待があります。私が理想としている、学び続けることのできる教師を目指し目の前の子どもたちと関わっていきながら、家庭科の楽しさや重要性を伝えていけたらいいなと思っています。最後になりましたが、佐賀大学でこれほどにも充実した日々を過ごせたのは先生方、両親、友達の支えがあったからこそです。心より感謝します。





学校は楽しいところ～全校朝会～

H11院修 白石支部 藤井裕明

「この前、国語のテストで子供たちが全員満点のところがありました。どこだと思います？あの『柿山伏』のところですよ。」と、六年担任が話してくれた。私は、びっくりするやら嬉しいやら…、勿論、この担任の先生の普段の授業が素晴らしいことは間違いないが、少しは、子供たちの力になれた？ことが嬉しかった。と言うより、期待していないことが起こったことにびっくりした。担任が話した「あの…」とは、私と職員が全校朝会でを行った狂言「柿山伏」のこと。全校朝会は、校長の短い授業だ。日頃の思いを子供たちへ伝える時間だ。あの時は、来月、東っ子フェスティバル（学習発表会）が計画されていたので、伝えたいことは二つ（①発表は大きな声で堂々と。②おかしなことは発表者が笑ってしまっても伝わらない。真顔でやってこそ笑いは伝わる）だった。狂言「柿山伏」では、私が主人、教務主任が柿山伏だった。数度の個人練習

の後、本番直前の休日、体育館ステージで二時間程練習した。その甲斐あって子供たちへは勿論、職員へも好評だった。この時、「学校は楽しいところだ」という大きなメッセージが伝わった。この後、年に一度は狂言をやろうと決めた。そして、今度は「附子」に挑戦した。今回は、チームを組んだ。太郎冠者を私が、次郎冠者を教頭が、主人を教務主任、進行を事務職員、そして衣装を学校支援員が担当し、またまた好評。

今回も、「学校は楽しいところだ」とのメッセージは届いたと思いつつ、今回は、自分自身が楽しんでいた。いいようにさせて頂いたチーム有東（有明東小学校）の皆さんに心から感謝感謝感謝だ。



義務教育学校に赴任して

S60卒 小城・多久支部

熊谷智佳子



今年は桜の開花が遅く、どこの学校の入学式も桜満開の素敵な入学式だったことと思います。私の学校では、一年生と七年生が手をつないで入学するという、ほのぼのとした入学式が執り行われました。在校生の参加は六年生と九年生です。しかし、この入学式の形式も今年度限り。来年度は七年生の入学式は行われず、進級という新たな形に変わります。

私は、四月の人事異動で、多久市立東原庫舎中央校に転任しました。平成二十七年六月に学校教育法の一部が改正され、これまでの小学校、中学校に加え「義務教育学校」が新たな校種として位置付けられたことは、ご存じの通りです。これを受け、多久



市は平成二十五年度に開校した小中一貫校三校を、今年度から「義務教育学

校」に移行し、新たなスタートを切っています。

この赴任を契機として、私も知らなかった、小中一貫校と義務教育学校との違いなどについて勉強させてもらっています。学力向上や豊かな人間の育成、中一ギャップの解消を目指して、新たな学校づくりを一層推進するために、職員一同力を合わせ、試行錯誤しながらがんばっています。小学校でなく前期、中学校でなく後期・・・まずはそれに慣れ、文書関係もすべて変換。文化が違うと言われる小・中の壁を越えて、義務教育学校の職員として互いに交流することから始めようと思います。

義務教育学校は、まだまだ、全国的にも数が少なく、何をやるにも、みんなで知恵を出し合い「やってみよう」の連続です。

器が人をつくります。義務教育学校に関する法令・制度等が整った中で、これから教頭として将来の姿をしっかりと見据えながら、新たな教育に挑戦したいと考える毎日です。



子どもの可能性は無量大

H26卒 藤津鹿島支部 末 安 ちひろ

「先生、やったあ！！」大きな拍手の中に聞こえる子ども達の喜びの声。子ども達の目にうっすらと浮かぶ涙。

私は嬉野小学校で金管バンド部の指導をしている。これは佐賀県アンサンブルコンテストで子ども達が金賞をとり、佐賀県代表をいただいた時のひとこまである。

舞台での音色の響きは、数か月前のそれとは大きな違いだった。10月から練習を始めたのだが、正直小学生にはレベルが高すぎるかと思われる選曲。しかも半分近くは楽器の経験が1年に満たない子ども達。どこまでできるのか賭けだった。私の指示や、レッスンの先生の指示がどこまで理解できているだろうか、本当に本番までに仕上がるだろうか。ましてや、指揮者のいないアンサンブル。子ども達だけでステージに立って演奏ができるのだろうか。自分で「大会に出す」と決めたのに、不安ばかりだった。

しかし子ども達は違った。どんなに厳しい指

導を受けても決してあきらめなかった。どんなにきつくても何度も練習を重ね、涙を流しながら必死に食らいついていた。吹けない友達がいたら、つきっきりで教えていた。そんな子ども達の姿に、私は確信した。「この子たちならできる。」

そして本番での堂々とした演奏。今までの練習の様子が走馬灯のようによみがえった。何とか演奏するのに精いっぱいだった子ども達が、自分たちで音色を造り、表現している。演奏を聴きながら涙を浮かべずにはいられなかった。そして子ども達のがんばりは、佐賀県代表の推薦状となって私たちの手元に戻ってきた。

どんな課題にも全力で挑み、不可能を可能にする。子どもにはこんなに素晴らしい力があるのだということ、子どもから教えられた気がする。さあ、次の九州大会はもう目の前。残り数週間で子ども達がどんな成長を見せてくれるのか、とても楽しみである。

校歌に託された思い

S60卒 神埼支部

高 尾 研 吾



- 一 朝夕仰ぐ八天山 登るに道は難くとも
その頂を極べし 学びの業もかくてこそ
- 二 澄みて流るる城原川 昼夜分かず末遠く
海に向かって進みゆく 世に立つ道もかくてこそ
- 三 正しき方に志 難きを避けずお止みなく
つとめ励まんもろともに 教えのままにいそしまん



本校の校歌は「春の小川」「春が来た」「故郷」で有名な高野辰之氏が作詞しています。ネットで調べたところ、高野氏はたくさんの校歌を作詞しておられ、北は北海道から南は福岡佐賀、樺太・

満州・朝鮮・台湾の小学校から高等学校まで幅広く活躍されていました。

九州では、本校と福岡県門司高等女学校に作られておりますが、現在では本校だけが歌い続けています。なぜ、本校の校歌を作ってくくださったのか、簡単に紹介します。

東京に東京八天会（仁比山出身者の会＝現：東京

神埼会）の代表をされていた大坪敬通氏（元清和高等女学校校長）が昭和9年頃（石碑には昭和10年3月）高野氏に依頼されたようです。

東京八天会では、母校に「校歌」という熱い思いがわき起こり、作詞を東京音楽学校教授で文学博士、唱歌の作詞では最も著名な高野辰之氏にお願いするということになったようです。大坪氏がふるさと仁比山の土器山として知られた八天山の険しさや城原川の澄んだ流れ、緑濃い田園風景など細かに話されたのでしょう。高野氏は一度も仁比山に訪れたことはないそうです。それでも、校歌から感じられる風景が目浮かぶのは八天会のふるさとを思う熱き思いが伝わった証と言えます。

私が赴任した今年4月にも、久留米に在住の農学博士 古賀 汎（ひろし）氏がお見えになり「校歌」への思いを1時間ほど話され、「竹馬の友はどのようになっているか逢うてみたい」と感慨深くお話しをされました。

故郷を愛する心を育てることは、学校の一つの役割ともいえるでしょう。

今年も本校の児童を連れて八天山に登山しました。

初心を振り返る



H19卒 三養基支部

久 米 大 輔

教職に就いて、今年で十一年目になりますが、この仕事を志した頃感じた思いを今でも大切にしています。

教職に就く前の私は、人前に出ることに強い抵抗感がありました。自分の考えていることや話し方など様々なことに自信がなかったからだと思います。教育実習の後、担当をしてくださった先生から、「この仕事、向いてないんじゃないか。」と言われました。しかし、その時の私は、悔しさを感じることなく、素直にその言葉を受け入れることができました。もしかしら悔しさを感じるだけの努力が足りなかったのかもしれない、もっとできることがあったのではないか。そう考えました。自分の能力の低さよりも、自分の姿勢に腹立たしさを感じていたのかもしれない。このまま教職以外の仕事を探すことは、「逃げ」のような気がして、思い切ってこの仕事を

やってみようと思いました。当時から変わらず今でも、この先生に出会えてよかったと思っています。

そんなきっかけから始まった教職生活です。当然、上手くいかないことばかりでした。それでも続けてこられたのは、私の周りに助けて下さる方がいたからです。ご指導いただいた先生、同僚、友人、家族と本当に人間関係に恵まれてここまでやってこられたと思っています。

今の私も、まだまだ力不足です。ですが、自分の力に悲観することはなくなりました。自分にできることを積み重ね、少しずつ成長していけばよい、そうしていくしかないのだと思えるようになりました。これからは、助けて頂いたお返しができるように、努力を重ねて自分自身に胸を張れるように、日々を過ごしていきたいと思っています。



夢をかなえて

S 56卒 佐賀市北部支部 西 佐 枝 子

「学校の先生になりたい。」

私の小学校1年生の時から夢でした。周りの人達に「私は先生になるんだ」と吹聴していましたので、教員採用試験に合格したときは、家族、親族、友人から祝福してもらいました。16年間の夢が叶った瞬間でした。その喜びは、今でも忘れられません。

初任校は佐賀市立神野小学校。現在、10校目に勤務しています。たくさんの教え子から、いろいろなことを教えられました。エネルギーをもらいました。ですから、いつも元気でいられました。

あれから37年。現在、佐賀市立春日小学校の校長として、学校運営を行っています。

最近、どんな仕事に就きたいかという思いを強く持たずに大学を卒業する若者によく出会います。小学生の時から自分の夢の実現のために

努力をしてきた私には、考えられないことです。

勤務した学校の子どもたちには、夢をもち、その実現のために目標を立てて努力することを惜しまないでほしいと全校朝会などで話してきました。夢をもっている子どもは、意欲的で明るく、少々のことにはへこたれず、生き生きとしているからです。

私の教職生活も、あと2年となりました。今は、子どもたちと若い教職員からエネルギーをもらって、「明るく元気に」をモットーにがんばっています。

教職に就いてよかった。死ぬまでそう思える人生を送りたいです。



外町小学校に赴任して



H24卒 旧唐津支部

本田 隆

今年度、私は初任校を離れ、外町小学校に赴任しました。教職3年目の私が、「有朋」に向けて何を書こうか迷いましたが、字数の許す限り、担任をしている5年2組の様子を伝えたいと思います。

5年2組は、全員で29名。教室の前方には、「仲がよくて明るく協力しあうクラスにしたい!」という学級目標を掲げています。私は、必ず1回目の学級会で目標を決めさせてきましたが、決意表明のような形になったのは、今年が初めてです。『「したい」とすることで、クラス全員が目標を強く意識できると思います。』『力強さを出すために、最後に「!」を入れた方が良いと思います。』など、しっかり考えて発言する子ども達を頼もしく思いました。5年生といえば、学習内容が難しくなり、人間関係が複雑になる学年です。友達と助け合うことで、様々な困難も乗り越えていける、クラスみんなの願いが込められたこの学級目標を大切にさせたいです。

学習面では、今年、特に力を入れたいと考えてい

ることがあります。それは、算数科の学習を児童司会型で行うことです。前任校では、国語科を中心に児童司会を取り入れた授業を行ってきました。児童司会型で授業を行うためには、ワークシートの作成や、司会団3名(司会、副司会、計時・黒板書記)との打ち合わせなど、教師が主体になって進める授業より準備に時間がかかるのは事実です。しかし、現在、子ども達は司会団の順番が回ってくるのを楽しみにしており、打ち合わせに向かう姿勢も真剣そのものです。他の子ども達も、自分達で話し合いながら正答を求めていくのが、おもしろいようです。児童司会型の授業ならではの良さは何か、常に意識しながら指導をしていきたいと思っています。

まだまだ幼さが残り、つまらないことで注意を受けることも多い5年2組の子ども達。来年、外町小学校を引っ張っていく立派な6年生になれるように、一生懸命に子ども達と向き合っていきます。



「世界遺産」のある町で

H9卒 佐賀市東部支部 福地 清隆

佐賀大学を卒業して小学校の教壇に立つようになり、19年目を迎えました。私は現在、佐賀市立中川副小学校に勤務しています。中川副と言えば、佐賀八賢人の一人で日本赤十字社の創設者でもある佐野常民公の生誕の地であり、中川副の子どもたちは親しみと尊敬の念を込めて「佐野先生」と呼んでいます。中川副は、平成27年7月に三重津海軍所跡が「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されたことで盛り上がっています。「佐野先生の功績や三重津海軍所の歴史的価値について、もっと多くの方に伝えたい!」という地域の思いをひしひしと感じます。

昨年度、私が担任していた6年生のクラスでも、総合的な学習の時間に、佐野先生の功績や三重津海軍所跡の歴史的価値について調べました。「なぜ、江戸から遠く離れた外様大名の一つだった佐賀藩が先進的な科学技術をもつことができたのか。」「なぜ、三重津に海軍所を作ったのか。」「なぜ、科学技術や軍事力の発展に尽力してきた佐野先生が、赤十字社の前身である博愛社を設立したのか。」子どもたちは、調べれば調べるほどに、新しい興味が湧き、地域を、佐賀を誇りに思

う気持ちは高まっています。

「地元の世界遺産のすばらしさをもっと多くの人に知ってもらいたい!」そんな思いが高まった昨年12月に、佐賀大学の「佐賀市キッズ歴史フォーラム」で発表する機会をいただきました。佐野先生が現代の中川副にタイムスリップし、思いを語るという創作劇でタイトルは、「佐野先生の想い未来へ」です。その後1月にも佐野常民記念館でも地域の方々を前に発表をさせていただきました。

これからも佐野先生の「博愛精神」を子どもたちと共に受け継ぎ、広めていくことができたらと考えています。「まだ、三重津海軍所跡に行ったことがない。」という方は、ぜひ、足を運んでみてください。



～佐野常民記念館での発表の様子～



「感謝」

H27院修 江北支部 岩 永 麻也華

文化教育学部を卒業して5年、教育学研究科を修了してはや3年が経ちました。現在は、幼い頃からの夢であった音楽の教員として、中学校に勤務しております。昨年度、初めて担任として受けもった中学1年生の生徒たち41名を縁があって今年度も受けもつことができ、現在は中学2年生の担任として毎日奮闘しております。思い返せば、大学時代に過ごした6年間はととても充実した日々でした。大好きな音楽について深く学ぶことができた喜び、同じ志をもつ者同士でともに励まし支えあった日々、それから友や先生方との出会いは、私の一生の財産となりました。中でも一番の思い出は、教員採用試験までの日々です。大学3年の秋口、友人同士の会話の中で教員採用試験の話題が出始め、進路に向けての本格的な準備が始まりました。早速友人と一緒に生協の講座へ申込み、同時に学部先生方が放課後行ったださる教採ゼミ、そして有朋会が主催する講座も受講することにしました。

それからというもの、毎日勉強に明け暮れる日々が続きました。時にめげそうになりましたが、今まで持ち続けた夢や教育実習で感じた喜びを思い出しながら、また、一緒に頑張る仲間の支えを借りながら勉強を続けました。そしてなによりも親身になって私たち学生のサポートしてくださったのは大学の先生方、そしてOBやOGの方々でした。貴重な空き時間や休日を使って、自己PRや小論文を何度も添削、実技の指導や模擬授業のアドバイスをしてくださいました。佐賀大学を卒業された先輩先生にこの話をすると、「自分たちの時にはなかったよ」とびっくりされます。このような形で様々なお力を借り、無事合格することができました。私の夢実現を全力でサポートしてくださった佐賀大学には、本当に感謝しております。卒業後も大学の先生方とは交流があり、今でも助けてくださいます。感謝の気持ちを忘れず、これからも精進して参りたいと思います。

神埼高等学校について

S59卒 県立・私立支部

神埼高校は、今年で89年目を迎える伝統校で、今年の入学生は120名の募集。本校は、これまで文武両道を教育目標の柱にし、生徒と教師が一体となって発展を続けた。同窓生の中には、副知事や神埼市長など活躍されている方が数多い。少子化、前期入試や県立中高一貫校の導入、通学区の規則の変更などを理由に年々志願者数は減り続けてきた。周囲の方に神埼高校が今後活性化していく方策について尋ねると、やはり1番目には高校卒業後の進路保障だと一様に答えが返ってきた。現状で成果を出していく他ない。また、校舎の全面改築で神埼清明高校



の北側に移転する。統合ではない。計画では、平成31年度内に新校舎完成を目指している。この移転は

山 口 義 民



神埼清明高校にもかなり不便を強いている。

昨年4月から校長として赴任し、生徒指導の充実、いじめや問題行動昨年0件、部活動の成績、学力伸長の状況、進路実現の成果、新校舎移転など、精一杯本校の良さや実績をアピールしてきた。私自身、授業を参観したり、放課後の活気ある部活動を見て回るたびに、今後クラス減に伴う様々な影響を考えると本当に辛いものがある。平成28年10月11日の「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第二次）」案では、県内の全日制課程36校のうち今年度募集定員は、14校が第1学年120人の3クラス規模以下であるとのこと。これから県下の高校で小規模化が進み、各学校の運営がますます厳しくなっていく。本校では、カリキュラムや行事、部活動等の再編など本校の良さを残しつつ、生徒が学校生活を生き生きと送ることができるように、また職員が本校で元気に意欲をもって仕事ができるように知恵をしぼっていききたい。

ソフトテニスに感謝！

H2卒 県庁支部 秀 島 邦 治



私がソフトテニスと出会ったのは、中学校1年生の時である。中学校に入学して、何部に入るか迷っていたときに、たまたまテレビで、その当時のテニス界の名選手、ジョン・マッケンローとジミー・コナーズの試合を見た。率直に「カッコいい！ おもしろそう！」と感じた私は、ソフトテニス部に入部した。

最近、考えるようになったことであるが、運動技能というものは、種目が違っていても、似たような動きは転移するものである。私は小学校の時に野球をやっていたので、バッティングの技能がソフトテニスのグランドストロークの技能に転移し、最初から意外とうまくできたのを覚えている。上達すればするほどソフトテニスにどんどんのめり込んでいき、部活漬けの毎日を送るようになった。運よく最後の中体連では団体戦で全国大会に出場し、準優勝という成績を収めることができた。その後も高校、大学とソフトテニス

一本で競技を続け、中学校の保健体育教師になってからは、部活動の顧問としてソフトテニスに携わることが多かった。本当にソフトテニスのおかげで今の自分があると感じている。

そのソフトテニスも今では、娘に受け継がれている。娘も小学校3年生からソフトテニスを始め、今年度から中学生になり、ソフトテニスに入部した。あまり上手ではないが、毎日一生懸命練習に励んでおり、部活中心の毎日を送っている。

これから数年は、娘の活躍を信じて、大会の応援等にも積極的に足を運んでいきたいと考えている。

私と娘の楽しみになっているソフトテニスに、今後も感謝しながらかわっていききたい。



私のストレス解消法

H27卒 武雄支部 副 島 奈 央 子

私のストレス解消法を紹介します。1つ目は運動です。趣味でバドミントンをしていたのですが、最近はズンバというダンスを始めました。ズンバとは、ラテン音楽などのノリのいい音楽に、タンゴやフラメンコ、サルサやヒップホップのダンスの動きを合わせたエクササイズです。ズンバとはスペイン語で「お祭り騒ぎ」という意味で、その意味の通り、参加者が全員笑顔でダンスを楽しむプログラムです。

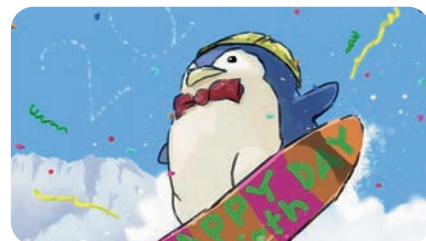
私は小城のアイルと三日月の「ゆめりあ」の教室に通っていました。8時前ぐらいに始まるので、仕事が終わった後に多くて週に2回行っていました。参加者は高校生くらいから、恐らく50代以上の方がいました。初めは恥ずかしく、話しかけることはできませんでしたが、ダンスが終わるころには笑顔で参加されている人に「お疲れさまです」と話せました。ダンスの先生の動きを真似するのですが、エアロビクスのように完璧に真似する必要がなく、自分のできる動きを真似すればいいので、運動が苦手な人にもズンバはおすすめです。

ストレス解消法の2つ目は絵を描くことです。中学校・大学で美術部に入っており、趣味で時々絵を描いています。絵を描いている時は、完成をイメー

ジして、わくわくする気持ちになります。最近はパソコンで友だちの誕生日用にペンギンのイラストを描きました。また、定期テスト用や英語のプリント用にイラストを描いたりします。

3つ目は料理することです。冷蔵庫に入っている材料が入っている料理のレシピを、クックパッドという料理サイトで検索して料理をします。最近はスパニッシュオムレツとツナ入りミートソーススパゲッティを作りました。料理をすると、冷蔵庫の材料を使い切ったという充足感と、効率の良い手順や片づけができた満足感に満たされ、作った料理がよりおいしく感じられます。最近はなかなか自炊ができていませんが、健康のためにもできる限り野菜を多く使った料理をしていきたいと思っています。

それぞれ自分に合ったストレス解消法があると思いますが、もしまだ試されていないならば、私はズンバをおすすめしたいです。もし教室でお会いしたら、よろしくお願いします。



あこがれの金沢



H3卒 旧東松浦支部

仁 部 朝 子

今年のゴールデンウィークは、25年ぶりに夫婦で旅行に行くことが出来ました。二泊三日の北陸新幹線に乗っての金沢旅行です。

今までは、ゴールデンウィークの混雑はテレビの中の出来事ではなかったのが、現実のものとなりました。1日目は、午後からスカイツリー&サンセットクルージングのはとバスツアーに出かけました。スカイツリーでは、エレベーターに乗り降りするだけでも長蛇の列で、上りのエレベーターから下りた途端に下りのエレベーターのために列に並ぶと



いう状態でした。美しい夜景も、人の波にもまれながらの景色でちょっぴり霞んで見えませんでした。それでも、東京の夜景はどこまでも広がる

宇宙のようでした。

二日目は、いよいよ北陸新幹線に乗っていざ金沢に。車窓から見える飛騨山脈の山々に圧倒されながら、わずか2時間半でつづら門を見上げることができました。早速、兼六園へ向かいました。金沢の主な観光地が周遊できるようにバスも整備され、たくさんの人々が次々に乗り込んでいました。そのほとんどの人々の目的地となっている兼六園。壮大に広がる根上松にしばらく見入っていると、和装に着替えている人々を多く見る中、結婚式の前撮りをしている新郎新婦を見かけて、周囲から「お幸せに。」の声に二人はにっこり。それを珍しそうに、外国人の方々が写真に収めておられました。有名な石灯籠の前は、人の石垣ができ記念写真を撮るのも憚れる思いでした。なんとか写真に収め、お団子に舌鼓。大勢の観光客に対して、金沢の方々はどんな時も親切にして下さいました。人々の人情に触れ、相手を敬う姿の美しさとライトアップされた金沢城の美しさが折り重なった旅となりました。



『これまでとこれからの私』

S52卒 鳥栖・基山支部 松 隈 千 恵 美

息子の病気と義父の介護の為、定年より6年早く小学校教諭を早期退職した私は、専業主婦としてスタートすることになりました。それまで毎日の生活に追われて家族の世話をちゃんとできなかったのが、おわびのつもりで自分なりに精一杯頑張りました。1年半がたち、息子は仕事ができるようになるまで回復しました。また、義父は米寿でこの世を去っていきました。それから私は、健康運動と信じて、健康補助食品関連の仕事に就きました。最初に苦労したのは言葉遣いでした。「何々しなさい。」口調から「何々してくださいませ。」への転向は、なかなか難しかったです。お客様に対する目配り気配りの大切さも教えていただきました。しかし、健康運動を生きがいにして歩み始めた道でしたが、それまでやってきた市民活動や政治的関心にストップをかけることができませんでした。そのような時に、他のことをやりたいという思いが沸き起り、その思いを止めることができなくて、この仕事を辞めました。小学校教諭とは全く異

なった仕事をして5年半。短い間ではありましたが、学ぶことの多い日々でした。

今は、健康、環境、平和を考えた活動を楽しみながらやっています。例えば、地域の子ども守り隊として、朝の登校のお手伝いをしています。黄色い帽子やチョッキをまとして、朝7時20分から20分間程度、交通量の多い所に立ち、黄色い旗を手にした大きな声で挨拶をしていると、本当に子ども達はかわいいなあと思います。そして読み聞かせ、主任児童委員、食改、お料理会、再生エネルギーを考える会、等の活動をできる範囲でさせてもらっています。地域の為にと想着やり始めたことですが、実は元気や喜びをもらっているのは私の方だなあと思います。生きがいにもなっています。

これからも体が動く限り、続けていきたいと思っています。





教職大学院での学び

佐賀大学教職大学院 2年 佐賀市西部地区 川 浪 博 文

私は平成28年4月から、佐賀大学大学院学校教育学研究科（教職大学院）で学ぶ機会を頂きました。この教職大学院は、学部卒業者を対象に、実践的指導力を備え、将来性がある即戦力となる新人教員の養成、現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得るリーダー教員の養成を目的に創設されたものです。「授業実践探究」「子ども支援探究」「教育経営探究」の3コースで、演習中心の授業と教育実習を行っています。私は子ども支援探究コースで、生徒指導や特別支援教育についての理論や現場に活用できる実践などについて、研究者教員と実務家教員（現職教員、指導主事等）に指導をしていただいています。また、佐賀県教育センターの適応指導教室と児童相談所で10日間ずつ実習も行いました。この2つの機関では、

不登校の児童生徒、虐待や非行等で保護所での生活を余儀なくされている児童生徒に学習支援や運動支援を行いました。短期間ではありましたが、課題を抱えている子どもたちへの接し方、子どもたちに寄り添いながら支援をされている職員の方々の対応の仕方など、たくさんのことを学ぶことができました。

平成29年度からは勤務校に戻り、1年次に学んだ理論をもとに現場で実践を行います。特別支援教育の推進に向けた取り組みとして、校内支援体制を充実させるための方策を探っていきたいと考えています。教職大学院1期生ということで、2年次の見通しが立たず不安な面もありますが、特別な支援が必要な児童生徒のために、また通常学級担任の悩みを軽減するための手助けができればと思っています。

「教職大学院の学びを通して」

佐賀大学教職大学院 2年 伊万里・西松浦支部 吉 野 浩 二



平成28年4月に、佐賀大学大学院学校教育学研究科（教職大学院）が新設され、「理論と実践の往還」「課題探究」を原理としたカリキュラムにより理論研究や事例研究などの学修と探究実習等を通して多くのことを学ぶことができる。1年次は、研究者教員と実務家教員の下で理論を学び、2年次は、所属学校（伊万里小学校）において、探究実習（学校変革試行実習）を行うことになっている。教職大学院での演習中心の授業では、小学校・中学校・高等学校と異校種の現状や課題等についてディスカッションを重ね、校種を越えて学ぶことができた。小学校勤務の経験しかない私にとっては、中学校や高等学校における学級経営、生徒指導の実際を一部であるが知ることができ、小学校・中学校・高等学校のつながりの重要性について有意義な学びとなった。

9月には関係機関実習として、佐賀市教育委員会と西部教育事務所において、大学院での研究テーマに沿った実習を行わせていただいた。佐

賀市教育委員会での実習では、佐賀市をあげて取り組まれている「子どもへのまなざし運動」、「学校と地域との連携」の先進的な取組の実際について学ぶことができた。西部教育事務所での実習では、所轄管内の学校への積極的で献身的な指導・支援、指導主事の先生方の入念な準備の実際についても学ぶことができた。

大学院で学びながら所属学校においてもメンターである校長先生に、学校教育についてご指導いただいた。教育に対する情熱と子どもたちへの深い愛情をいつも感じ、「はじめに子どもありき」というお世話になった元校長先生の言葉を思い出し、大学院での学びを今後の教職人生で生かしていきたいと改めて痛感した。これから求められる「学び続ける教師」をめざして、「子どもたちのために」を忘れずに「学び」続け、実践していきたいと思う。

旧 東 松 浦 支 部 便 り

旧東松浦郡支部は、唐津市を間に挟んで広範囲にわたります。市町村合併前の唐津市を囲んで「巖木・相知・北波多地区」「浜玉・七山地区」「呼子・鎮西地区」「玄海・肥前地区」の4つに分かれています。有朋会の支部長や支部事務局は、この4つの地区が持ち回りで引き受けていました。

しかし、この旧郡部では、学校の統廃合により、学校数が大きく減りました。合併後は、切木中学校・大良中学校・第四中学校の統合や呼子中学校・名護屋中学校・打上中学校の統合など、旧市町をこえた統合も進められました。また、廃校となった小学校や分校は、20校近くになります。最近では、今年度小中一貫校となった「玄海みらい学園」も注目されたところです。このような中で当然教職員の数も減少し、佐賀大学出身者がいないという学校や、地区の中に佐賀大学出身の管理職がいないという状況も生まれてきました。支部長や事務局の地区の持ち回り自体が成り立たないことも出てきたのです。

そこで、既に新たな唐津市として10年が過ぎた今、有朋会支部も唐津支部と統合して新たな歩みを進めようと、会員の皆様に提案しようとしています。

私自身、以前は、有朋会については「何をしているのか、何のためにあるのかよく分からない」「普段は全く意識したことがない」といった思いが正直なところでした。しかし、「自分が学ばせていただいた母体としての佐賀大学に何かお返しすることができれば」「同じ学舎で学んだ者同士が、情報を交換したり励まし合ったりできたら」と考えると、有朋会の意義を改めて共有することができると思います。一昨年度は、初めて旧唐津市と旧東松浦郡の全学同窓会の総会と懇親会を、合同で行うことができましたので、今後も少しずつでよいので、活動を充実させていきたいところです。旧唐津市と東松浦郡の統合が実現し、その第一歩になればと願っています。(支部長 宮原 正行)



三 養 基 支 部 便 り

三養基支部では、2月4日(土)みやき町の「日本料理 なか乃」で平成28年度の支部総会・懇親会を行いました。本部からは鶴良樹副会長、竹下敬教事務局長に参加していただき、親交を深めることができました。



三養基支部は、他地区同様、退職された会員の方々が、地域の子どものために、熱心に見守り活動をされています。北茂安校区の宮原照次様は、みやき町サポート隊として、毎日登校と下校の際に学校近くの交差点で子どもたちの安全を見守り続けてくださっています。「おはようございます」「おかえりなさい」と温かいまなざしで子どもたちに声をかけていらっしゃる姿に頭が下がる思いです。(支部長 築波 真史)

佐 賀 市 西 部 支 部 便 り

佐賀市西部支部では、2月23日(木)に、グランデはぐくれにおいて、平成28年度の総会・懇親会を開催しました。本部から宮尾正隆会長様、竹下敬教事務局長様にもご出席いただき、交流を深めることができました。

宮尾会長様からは、「佐賀大学の近況」について、竹下事務局長様からは、「有朋会の重点課題と取組」についてお話いただきました。支部からは、業務報告をさせていただきました。

少人数ではありましたが、懐かしい昔話にも花を咲かせ、話の中で、様々なご縁の深さ、有難さを感じたひと時でした。現場では、「心を亡くす(多忙)」と言われるこの時期。短い時間ではありましたが、ひな祭りにちなんだお料理も堪能し、心穏やかな時間を過ごすことができました。

この総会・懇親会をきっかけに、さらに交友を深めていきたいと改めて感じています。次回は、多くの皆様のご参加をお待ちしています。(支部長 副島 真治)



有朋会 130周年記念誌特集

原稿募集!

平成29年7月1日
有朋会会長 宮尾 正隆

有朋会130周年記念誌発刊について (お願い)

盛夏の候 みなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
有朋会は、明治17年(1884)佐賀県師範学校が創設された4年後の明治21年(1888)に発足。同窓会名を「有朋会」と名称して129年間引き継がれ、現在に至っています。
昭和63年(1988)に100周年記念誌を発刊しました。平成30年(2018)には130周年を迎えることとなります。昨年2学部が新設され文化教育学部が廃止されることもあり、130周年記念誌発刊を計画しているところです。
つきましては、師範、教育学部、文化教育学部(総合文化課程)時代の資料や思い出の写真等を提供していただきたいと存じます。有朋会事務局で受付を行っていますのでよろしくお願い致します。

特に、戦後70年ほどになる今日、師範学校時代の有朋会会員の方々が教職や学業半ばにして戦場に駆り出され、戦死された方や学徒動員で亡くなられた方々の記録等を後世に伝えたく、戦時中・戦後の(S17~S21)の先輩方の当時の様子を特集したいと考えています。情報を収集したいので是非ご協力をお願いいたします。(91歳以上の方の資料が家に眠っていないでしょうか。)

また、今回は写真や図版、実際の資料を中心に記念誌を作成したいと考えています。教育学部以降の資料も合わせて、ご提供をお待ちしています。

留意事項

- ① 写真や資料については、年代や簡単な説明をつけてください。
- ② 写真や資料については、原則としてお返しできません。希望される時はご連絡ください。
- ③ 提供して下さった写真や資料が必ず掲載されるとはかぎりませんが、掲載されなかった分については、お返しするか同窓会で保管をいたします。

【130周年記念誌編集委員会】

編集委員長	鶴 良樹
副編集委員長	山口久美子、山田 直行
編集委員	瀬戸口 悟、黒木 正孝 江島きよ子 本部幹事、支部役員
事務局	竹下 敬教

【連絡先】

有朋会事務局長 竹下 敬教
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
佐賀大学菱の実会館内
TEL: 0952-23-1253
FAX: 0952-25-5700
E-mail: dousoukai@sadai.jp

発刊目的

有朋会130周年を迎え、これまでの師範学校から佐賀大学へと辿った歴史を写真や文章で振り返るものです。この記念誌を後世に残し、発刊を機に、歩んできた道のりを振り返るとともに、同窓会の更なる発展のために連帯の絆をさらに強めたいと願うものです。

編集方針

有朋会の歴史を記述し、記録誌としての意味を持つ。特に沿革やカリキュラム等も充実させる。重点を100周年以降（昭和63年）に置き、文化教育学部と学部改編等の記録を残す。会員に資料や写真、執筆依頼をする。

写真や図版等を多く掲載し、読みやすく見やすくする。そして、読みたい記念誌にする。

制作費用（予算）（企画・印刷費用）（見積）300万円～400万円程度

装丁・ページ数・写真（見積）規格：A4版、表紙：カラーPP加工、本文：カラー48P、モノクロ152P、
合計200P
見返し 里紙、写真（カラー50点、モノクロ50～100点）、
並アジロ製本

印刷部数（見積）配布予定者や購入希望者 約6,000部

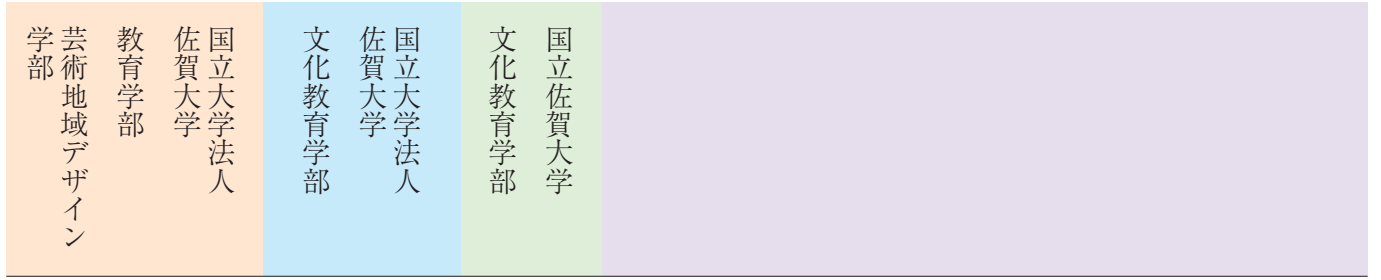
編集委員 130周年記念誌編集委員会（P12下段参照）

スケジュール

- H29. 4 有朋会 130周年記念誌発刊について
- H29. 5 編集方針、企画、スケジュール、資料収集・整理、粗年表・仮目次の作成
- H29. 5 執筆要領の作成、取材
- H29. 7 原稿の作成・依頼
- H30. 9 デザイン・レイアウト・校正
- H30.10 印刷・製本
- H30.12 配布・販売
- H31. 1 編纂資料の保存とまとめ

ページ構成案

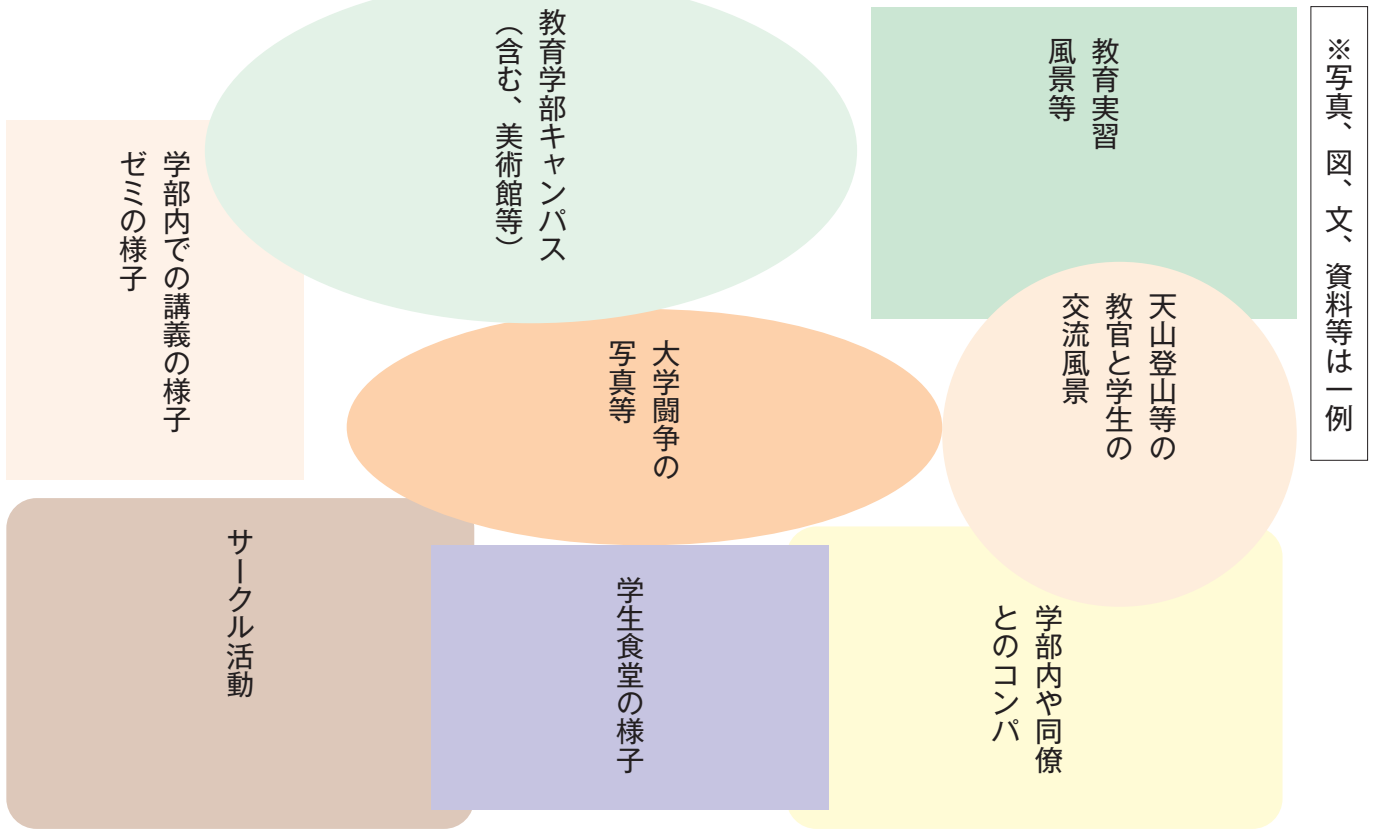
- 巻頭** ○扉、目次、祝辞、ご挨拶
- 内容** ○写真で見る沿革……師範期、戦中期（特集）、佐賀大学創立期、教育学部（+総合文化課程）、文化教育学部（学校教育課程、国際文化課程、人間環境課程、美術・工芸課程）、新教育学部、芸術地域デザイン学部
- 有朋会誌の歴史……歴代の有朋会報誌紹介
 - 同窓会写真
 - キャンパスの変遷…写真
 - 校歌、寮歌等
 - 歴代同窓会長
 - 過去の周年行事……100周年記念式典、「有朋 創設百年記念誌」
- 資料編** ○卒業生数、現同窓会の組織、学部学科の変遷、年表
- 巻末** ○資料提供者、執筆者一覧、編集委員名、編集後記



国立大学法人
佐賀大学
教育学部
芸術地域デザイン
学部

国立佐賀大学
文化教育学部

- 昭和二八(一九五三)年 四月
 - ・ 特別教科(美術・工芸) 教員養成課程の設置
 - ・ 師範学校以来の附属小学校、附属中学校、附属養護学校(附属特別支援学校)及び代用附属本庄小学校、代用附属城西中学校は教育実習の受け入れ校
- 昭和三三(一九五八)年 一月
 - ・ 師範学校以来の「筑紫野寮」の横に女子寮が完成
- 昭和三〇年後半〜四〇年前半
 - ・ 一九六〇年安保による学生運動の影響で大学内でも全学闘争委員会による教育学部長室占拠、学部長監禁(昭和四十二年六月)
- 昭和三六(一九六一)年 十月
 - ・ 本庄地区へ校舎移転
- 昭和三六(一九六一)年 三月
 - ・ 養護学校教員養成課程の設置
- 昭和三三(一九五八)年 四月
 - ・ 附属養護学校(現・附属特別支援学校)の設置
- 昭和三三(一九五八)年 四月
 - ・ 総合文化課程の設置
- 昭和三三(一九五八)年 十月
 - ・ 有朋会創立一〇〇周年記念式典
- 平成五(一九九三)年 四月
 - ・ 大学院教育学研究科の設置
- 平成八(一九九六)年
 - ・ 教育学部が文化教育学部と名称の変更
 - ・ 教養部は廃止
- 平成一六(二〇〇四)年 四月
 - ・ 国立大学法人法に伴い名称の変更
 - ・ 佐賀医科大学との統合により五学部の大学となる
- 平成一七(二〇〇五)年 一月
 - ・ 文化教育学部と佐賀県教育委員会との連携、協力協定の締結
- 平成二五(二〇一三)年 六月
 - ・ 佐賀大学美術館の設置
- 平成二八(二〇一六)年 四月
 - ・ 文化教育学部の改組 により教育学部と名称を変更
 - ・ 「幼小連携教育コース」「小中連携教育コース」設置
- 平成二九(二〇一七)年 四月
 - ・ 文化教育学部改組により芸術地域デザイン学部の設置
 - ・ 芸術地域デザイン学部有田キャンパスの設置



第二次世界大戦 戦中・戦後における変遷

【師範学校、佐賀大学教育学部、（総合文化課程）、文化教育学部、教育学部、芸術地域デザイン学部】

名称

佐賀県

師範学校

社会及び大学や学部等の概要

明治一六（一八八三）年

・分県運動により長崎県師範学校から分離して設置

昭和六（一九三一）年 七月

・鶴田登、鶴田安雄の兄弟 全国中等学校庭球大会優勝

昭和九（一九三四）年 七月

・全国師範学校剣道大会優勝

戦中

昭和一六（一九四一）年 十二月

・第二次世界大戦 開戦

昭和一八（一九四三）年 四月

・師範学校令により明治十六年に創設された佐賀県師範学校は廃止

昭和一八（一九四三）年

・師範学校からも学徒動員として勤労奉仕及び学徒兵として学徒出陣

昭和一九（一九四四）年 四月

・佐賀県立青年学校養成所が文部省直轄の官立佐賀青年師範学校となる

戦後

昭和二〇（一九四五）年 九月

・日本が降伏文書に調印し日本軍が武装解除

・師範学校の学徒兵も満州国駐留の関東軍や北方方面の第五方面軍などに配属されていた生徒は、ソビエト連邦の対日参戦によるシベリア抑留

昭和二四（一九四九）年

・学制改革により新制大学とし佐賀大学四学部の一つとなる

国立佐賀大学
教育学部

師範学校時代の
校舎等写真や図等

体育・文化・サークル等
の活動の様子

師範学校生の
シベリア抑留時の
手記や生活図

師範学校時の
思い出

戦時下の
学生生活

特別教科（美術・工芸）
制作風景

寮生活の様子

本 部 便 り

総 会 ・ 懇 親 会

期日 平成29年8月26日(土)

会場 「マ リ ト ピ ア」

- 受付……………13:00~
- 総 会……………14:00~14:30
- 学部より……………14:30~14:50
- 箸の調べ……………15:00~15:30
- 懇親会……………15:40~17:40

- ・会費 3,000円 各学校委員や支部長へ申し込む。
- ・本部へはFAX(0952-25-5700)で。当日申込も可。
- ・会費は学校委員に前納するか、当日受付にて。
- ※今年から、喜寿、還暦に加え、古希のお祝いも行います。
- ※今年度のお世話担当は、昭和62年3月卒の皆さんです。

追 悼 会

期日 平成29年11月19日(日)

会場 「願 正 寺」

- 受付……………9:30~
- 追悼会……………10:00~11:00

※明治24年有朋会員による「総集会」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑が建立され、全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会最大の年行事として継承されてきました。

平成29年度 有朋会 行事予定

月	日	曜	本 部 行 事	備 考
1	土		教職員異動新聞発表(異動による名簿更新)	※各支部で会員把握
4	11	火	第1回正副会長会(18:00~)	代議員名簿締切28日
	22	土	第1回本部役員会(15:00~)	採用試験支援4/12、19
5	20	土	会報36号執筆者締切り(2月18日原稿依頼)	採用試験支援4/10、17 (29日から個別指導1)
	27	土	第1回支部長及び事務担当合同会議(15:00~)	
7	水		会報36号 編集会議(2回校正)	
	9	金	62卒世話役の依頼	
6	16	金	各支部会報部数調査	
	21	水	各部会実施予備日	※各部会で決定
	28	水	62卒世話役代表者の打ち合わせ(19:00~)	菱の実会館小会議室
3	月		喜寿、還暦、感謝状 締切	
	10	月	本年度の物故者、喜寿、還暦対象者の確認依頼	会員調査締切:退職会
7	11	火	会報36号 発送開始	
	26	水	第2回正副会長会	
	28	金	喜寿祝賀該当者、感謝状受賞者決定	
			62卒世話役の打ち合わせ(19:00~)	
	28	金	会員数調査 締切 会費一月末締切	現職の会費納入締切
1	火		懇親会参加申し込み 締切	採用試験支援 (7/31~8/10個別指導2)
8	2	水	学部意見交換会(学部課程代表)18:30 多目的室	採用試験支援 (8/16~8/18個別指導3)
	26	土	総会・懇親会14:00 マリトピア 直前打ち合わせ:本部・62卒 12:30集合	
9	29	金	平成29年度追悼対象者報告第1次締切	会費納入締切(退職)
	2	月	追悼会案内の発送	
	11	水	第3回正副会長会(18:00~)	
10	14	土	(新企画)自己成長セミナー	菱の実会館多目的室
	16	月	平成29年度追悼対象者報告 最終締切	
	21	土	本部役員会(15:00~) 菱の実会館多目的室	
	18	土	佐賀県青春寮歌祭(13:00~) エスプラッツホール	
11	19	日	願正寺との打合せおよび前日準備 事務局	
	29	水	追悼会(願正寺)9:00~11:30	各支部より3名程度
	29	水	キャリアデザイン(講師未定)10:30~12:00	
12	6	水	第4回正副会長会(18:00~)	
	10	水	学部意見交換会(学部課程就職担当)18:00 多目的室	
1	26	金	就職支援講座担当者会(15:00~16:00)	学部、就職支援課、講師 菱の実会館
2	17	土	第2回支部長及び事務担当合同会議(15:00~)	未納会費の納入締切
3	23	金	佐賀大学卒業式(10:00~)・祝賀会(12:30~)	
	28	水	有朋会監査(10:00~) 菱の実会館小会議室	

会 費 納 入 へ の お 願 い

※会費納入は、基本的に下記の要領で!

特別会員(師範学校卒業)の方は免除。
会報が必要な方は、校区小学校の学校委員に連絡を。

【1】 県内学校勤務の会員は?

学校単位で徴収し、支部の事務局へ納入。

【2】 県内の退職会員は?

校区の小学校に持参するか、同封伝票で。
金額は地区により異なるので確認を。

【3】 県外会員の方は?

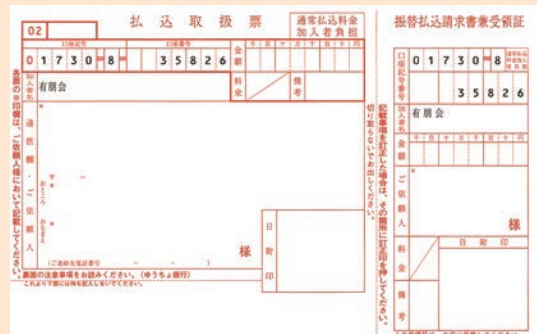
各県の事務局へ納入。年会費は、1,300円。
福岡県は支部費を含み、2,300円。
新規納入の方は同封の伝票でも可。

【4】 卒業後6年経過の会員は?

県内在住者は、上記1、2の方法で。
県外在住者は、別添振込み用紙で、郵便局の
口座に納入。

【5】 払込納入を希望される方は?

- ・ゆうちょ銀行や郵便局ATMで。
- ・口座番号 0-1730-8-35826
- ・加入者名 「有 朋 会」
- ・払込取扱票は、「赤」の用紙をお使いください。
- ・できるだけ早期に納入を済ませましょう。



「有朋」 36号 { 発行日 平成29年7月1日(土)
 発行者 有朋会会長 宮尾正隆
 編集者 編集部 長 江島きよ子
 事務局 事務局 長 竹下敬教

住 所 〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1
 佐賀大学菱の実会館 TEL 0952-23-1253
 E-mail dousoukai@sadai.jp
 HP http://sadai.jp/alumni/